

活動報告書

令和3年7月

岩城まちづくり協議会

【委員名簿】

役職	氏名	所属（推薦）団体等	備考
会長	渡部 昭	滝俣自治会長	
副会長	早川 あけみ	学識経験者	
委員	寺口 力	商工会岩城支部	
委員	大山 元子	岩城産直会	企画運営部会
委員	鈴木 とみ子	亀田婦人会	
委員	今野 すみ子	道川婦人会	
委員	菊地 滝子	市社会福祉協議会岩城支所	
委員	伊藤 雅人	岩城芸術文化協会	企画運営部会
委員	佐々木 一典	岩城体育協会	企画運営部会
委員	高橋 知恵美	岩城中学校PTA	
委員	東海林 敬介	老人クラブ連合会	

委員数＝11名

任期＝令和元年8月1日～令和3年7月31日

2. 開催概要

開催区分	開催年月日	会場	参加人数	協議内容
市要請	令和元年 8 月 23 日 (金)	総合支所会議室	13 名	委嘱状交付、会長・副会長選任
自主	令和元年 10 月 30 日 (水)	総合支所会議室	8 名	会長・副会長選任
自主	令和 2 年 2 月 27 日 (木)	総合支所会議室	4 名	企画運営部会
自主	令和 2 年 9 月 24 日 (木)	総合支所会議室	5 名	企画運営部会
自主	令和 2 年 10 月 1 日 (木)	書面開催	1 名	中間報告とテーマに関する意見聴取
自主	令和 2 年 12 月 15 日 (火)	総合支所会議室	5 名	企画運営部会
市要請	令和 3 年 2 月 22 日 (月)	岩城会館 日本海の間	9 名	協議会の協議内容について
自主	令和 3 年 3 月 17 日 (水)	岩城会館 日本海の間	9 名	コロナ禍における、地域住民によるコミュニティ活動を協議
市要請	令和 3 年 7 月 20 日 (火)	総合支所 特別会議室	10 名	活動報告書の確認について

開催回数 = 9 回

参集延べ人数 = 63 人

通算協議時間 = 約 20 時間

3. 協議経過

第4期岩城まちづくり協議会委員は、令和元年8月に市より委嘱され、会長に渡部昭委員、副会長に早川あけみ委員、企画運営部会委員に大山元子委員、伊藤雅人委員、佐々木一典委員がそれぞれ選任された。

前期である第3期同協議会では、『観光マップの作成』に取り組み、数パターンのマップ案が活動報告書とともに提出されているが、第4期のテーマについては、第3期のマップ案を更に練り上げ、成果品として完成を目指していくことが企画運営部会において方向づけられた。

しかし、令和2年3月になり新型コロナウイルス感染症が拡大すると、あるゆる会議は中止され、参集することも難しい状況となった。市からの自粛要請もあり、本協議会も令和2年7月まで活動を自粛したが、同年9月、少人数で開催可能な企画運営部会や書面による意見聴取を行いながら活動を再開した。それでもコロナ禍による影響がまだあること、テーマを方向づけた令和2年2月からは情勢が変化していることを踏まえ、協議テーマを『観光マップの完成を目指す』から、『コロナ禍における地域課題と地域住民ができること』に方向の転換をした。

協議テーマ『コロナ禍における地域課題と地域住民ができること』

コロナ禍においては、活動自粛やイベントの中止、物資の不足等多方面にわたり影響が生じている。岩城地域も例外ではなく、改めて地域に発生している課題を見つけ、その中で住民自らができる対応策を模索していくことにした。

各委員からコロナ禍における地域課題は、次のことが挙げられた。

- ・ 町内会などの会議・集会・会合の減少、中止
- ・ 地域行事の中止
- ・ 消防・防災組織活動の中止
- ・ ボランティア活動の中止
- ・ 外出の機会の減少
- ・ 会話の機会の減少
- ・ 活動をしないことによる運動機能の低下
- ・ 感染者に対する誹謗・中傷
- ・ 営業店舗の減少
- ・ 県外在住者の流入の拒絶

これらの地域課題を受け、企画運営部会において

①「地域コミュニティを深められる活動等の企画・提案」

②「地域に感染者が発生した場合の心がまえ〇箇条（〇は数字）」の2つが選定され、全体会で協議していくこととなった。

①「地域コミュニティを深められる活動等の企画・提案」

町内会などの会議や集会、行事の多くが中止され、もともと多くはなかった地域コミュニティが消滅してしまう恐れがある。一方で、環境整備など屋外で密集せずに行える活動は、町内会でも継続して行われている。現状のコロナ禍中でも実施できている活動を参考にしながら、消滅しかけている地域コミュニティを深められる活動を企画し、町内会等の各団体に提案をしていきたいという趣旨で選定された。

委員からの企画の提案

- ・消毒やマスクの着用で密を避けながらの実行は可能と思われる屋外活動(クリーンアップ、花いっぱい運動、野球大会、パークゴルフ、防災訓練・活動、ジョギング、ウォーキング、等)
- ・屋内でも体育館等広い空間で消毒やマスクの着用で密を避けながらの実行は可能と思われる活動(子どもと大人が一緒に出来るゲームや健康体操、ジョギング、ウォーキング等・・・町内会単位で実施したらどうか)
- ・健康づくりに向けた住民参加の催し(インターバル速歩、軽体操・運動、ゲーム、教室、等々) ～ 町内会単位で、それぞれの事情・状況に即した催しを企画することが肝要
- ・地域の食文化を再発見・掘り起こし・再認識し、継承する機会とする催し
- ・専門家を招いてのコロナ勉強会～地域のみんなで勉強して、正しい知識を持つとう
- ・活動に向けたより安全な環境整備のために、飛沫防止用のスタンド(衝立)の貸し出し等
- ・子どもから高齢者まで一緒に活動できるお楽しみ会的な催し(屋台など)
- ・電話の活用～定期的な安否確認、困りごと相談等を行う。
- ・基本的な対応についてのレジュメ・掲示物を配布する。
- ・一人暮らし・高齢者等の安否確認(声がけ)・除雪、空き家等の見回り
- ・集会施設等への憩いのスペース設置(ミニデイサービスなども含む)

委員からは上記の方向性が挙げられたが、反面、「自粛をして静かにしていた方がいい」「企画をして参加者が感染した場合の責任がとれない」「自身の感染が怖い」という意見があったのに加え、第4期の活動時間も少なかったため、自主実践及び企画の提案まで到達することは出来なかった。

②「地域に感染者が発生した場合の心がまえ〇箇条（〇＝数字）」

国や県、市からコロナ渦中における活動ガイドラインやマニュアルは示されてきているが、実際に住んでいる地域に感染者が発生した場合、その地域や職場で誹謗や中傷が発生している情報がある。自分の近隣で発症者が出た場合でも、心がまえを箇条書きにしたものが家や職場の壁などに貼られて常に目にすることがあれば、“すり込み”により、そういった誹謗・中傷は抑えられるのではないかという趣旨で選定された。

委員からの提案

各委員から、心がまえを標語にしてわかりやすく訴える“標語スタイル”や、具体的な日常対応を箇条書きにしたスタイルのものが挙げられた。

《標語スタイル（心構え等）》

- ☆明日は我が身と肝に命じよう
- ☆感染者にも人権がある
- ☆誹謗・中傷・デマはやめよう
- ☆他者への思いやりを忘れずに
- ☆うつさない、うつらないことに細心の注意を
- ☆自分だけは感染しないはずがない
- ☆感染者を責めるより予防に努めよう
- ☆自分を守り家族を守る感染予防
- ☆感染者をそっと見守る地域の目
- ☆感染者にかける言葉は自分にも
- ☆絶対に人のせいにしない
- ☆自分勝手に判断しない
- ☆100%罹患しない対策は無い
- ☆犯人捜しはせず、蔓延しない対策を考えよう
- ☆ワクチンを接種すればコロナに罹患しないわけではない
- ☆一人ひとりが当事者意識を持とう
- ☆家族との絆を考えよう

《具体的な日常対応スタイル》

- ★三密（密閉・密集・密接）を避けることを徹底する～少しでも感染リスクを減らす

★日常から手洗い・マスクの使用を徹底する ～うつらない・うつさない・持ち込まない～

★不要不急の外出を避ける

★身体に抵抗力をつける（運動・睡眠・食事）

★発熱、味覚異常など怪しい症状があったら・・・（連絡先）の確認

⇒かかりつけ医や身近な医療機関に電話で相談し、指示を仰ぐ。どこに相談してよいか分からない場合は、あきた新型コロナ受付相談センターへ。対応できる医療期間を紹介してもらう

★町内会で支え合う ～個人から町内、町内から行政の連携を構築する～

★換気の徹底 ～1時間に5分弱の換気を2回～

⇒暖房で部屋を暖かくしてから窓を開ける、部屋の対角にある窓を開ける等

★適度な保湿 ～湿度の目安は40%以上、加湿器の使用、洗濯物の部屋干し等

一部テーマから外れ、本来の趣旨である“地域に発生した際の誹謗・中傷を抑えること”に特化した内容ではないものが含まれているが、現状のコロナウイルス感染症及び感染者に対する心がまえとしては地域住民に周知したいものであり、あえて除外・選定はしないこととした。

周知方法は、ポスター形式にして家に貼ってもらう方法、チラシ形式にして周知する方法等があげられたが、自主実践としてポスターやチラシの原案作成をするところまでには至らなかった。

4. まとめと報告

岩城まちづくり協議会（第4期）は発足以来様々な協議を重ねてきたが、当初は会長が決まらなかったことにより協議に進むことも出来ず、協議テーマが決まった直後にコロナウイルス感染症が発生し活動を自粛せざるを得ない状況に陥るなど、委員一人ひとりも大変苦しい思いで協議を続けてきたところである。

途中での大きな方向転換も経ながら「コロナ禍において自分たちができること」についての協議を深めてきたが、いまだに続くコロナ対策にあたってのヒントや方向性が提示されたものとする。

7月いっぱいでの任期終了にあたり、各委員から提案されたそれぞれの意見を上記のとおりまとめ、これをもって本協議会の活動報告とする。